

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和7年6月～令和7年9月（※一部の品目については、5月から8月）

(3) 調査結果

ア 農産物

(ア) 普通作物の生産状況

a 水稻

県内の主食用米の作付面積は、前年より115ha増加し、20,215haと見込んでいる。

9月末現在での生育はやや早く、早生品種を中心に収穫が進んだものの、降雨の影響により一部で収穫の遅れがみられ、主食用米の収穫率は約5割（前年：約7割）となっている。

また、8月末現在のうるち玄米の1等米比率は69.8%と前年よりやや高く、作柄については前年並みとなっている。

非主食用米の作付面積については、前年より387ha減少し、889haと見込んでいる。

主食用米・非主食用米 作付面積の推移



b 大豆

9月末現在、一部では虫害等の発生が確認されるものの、概ね順調に生育している。

(1) 野菜の生産状況

野菜全般において、春先の寒さの影響により5月までの生産量は低めで推移し、6月から7月上旬においては平年並みに戻ったものの、その後は猛暑の影響により生産量・入荷量が減少したため、県内供給が十分にできない品目もあった。

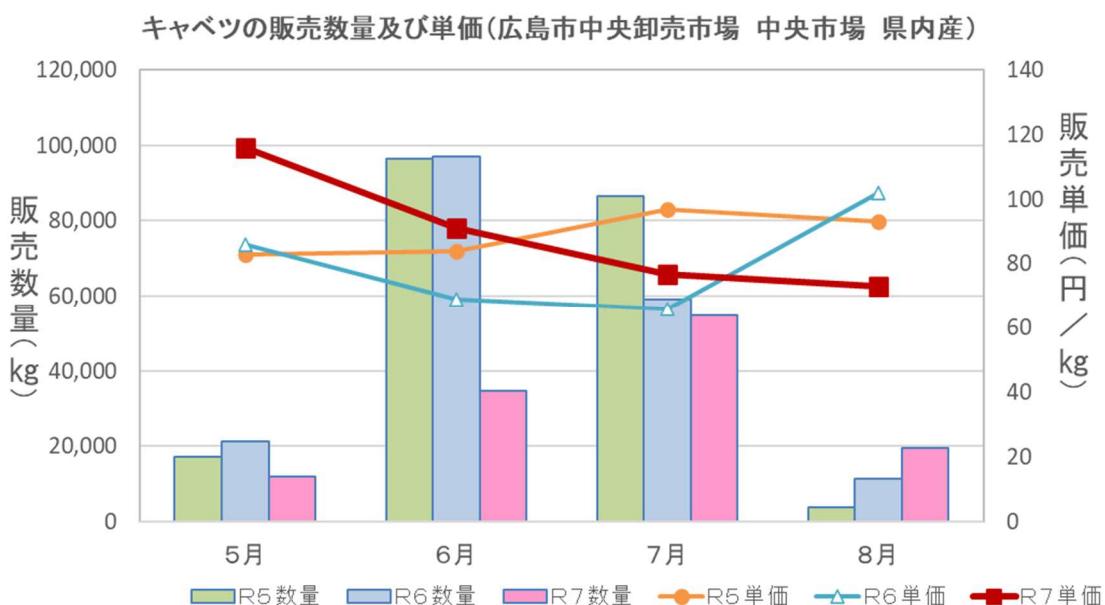
a キャベツ

庄原市や北広島町など県北部で生産されたものが流通した。

販売数量は春先の低温の影響により、5月から6月は例年より少なく推移した。

販売単価は、5月は例年より2割程度高く、その後は例年並みで推移した。

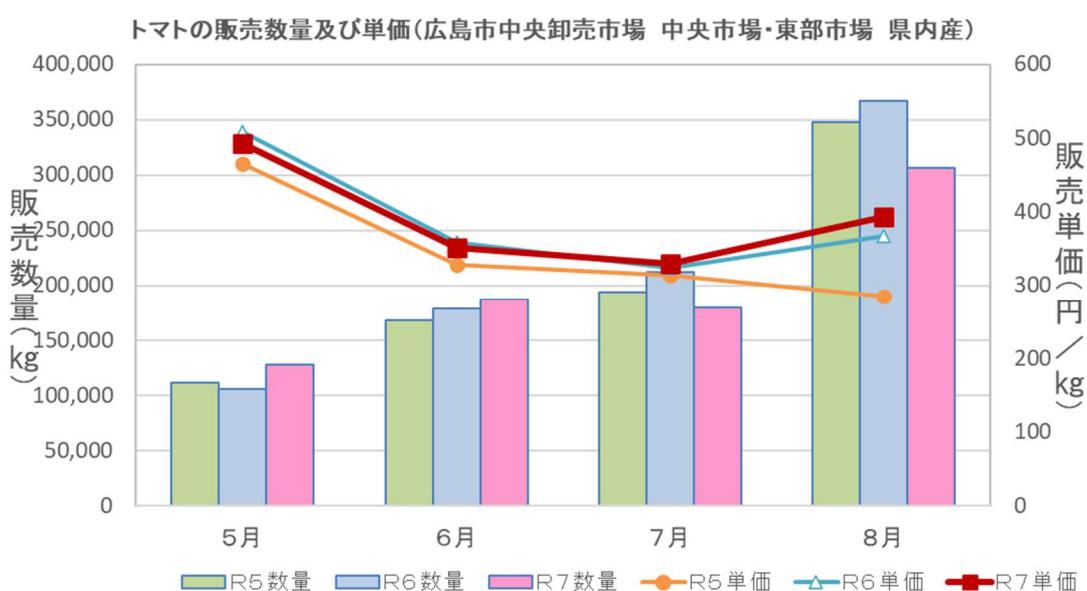
加工業務用を中心に市場外流通の割合が増えてきている。



b トマト

6月までは呉市などの県南部、7月からは神石高原町や庄原市、北広島町など県北部で生産されたものが流通した。

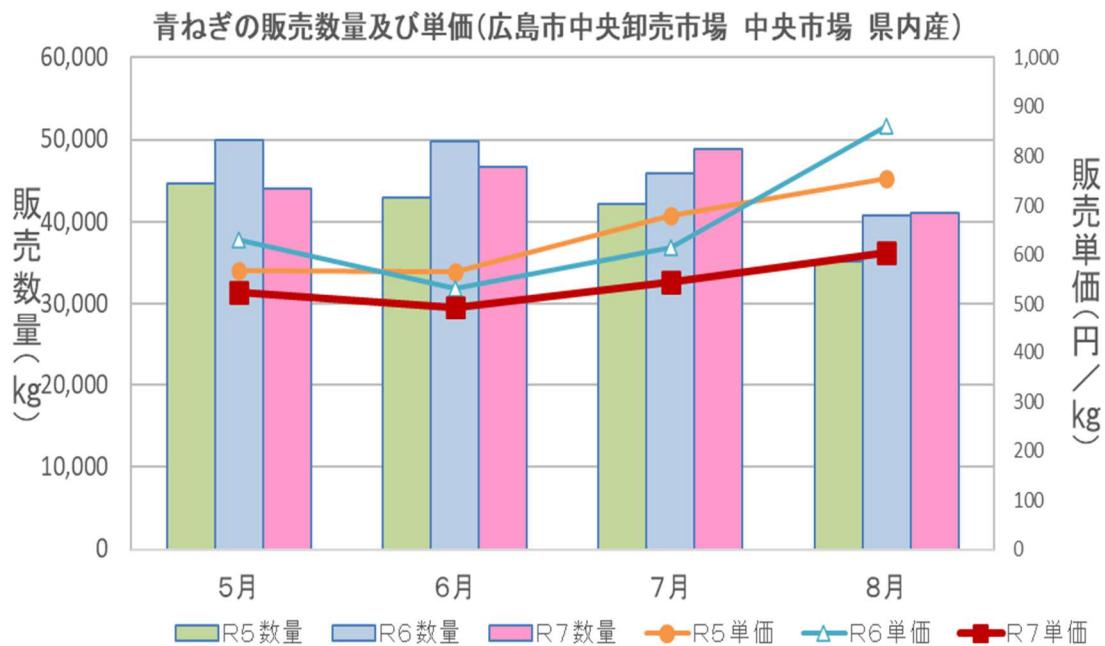
販売数量は6月までは例年よりやや多く、販売単価は高値傾向で推移した。



c 青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や庄原市などの土耕栽培のものが流通した。

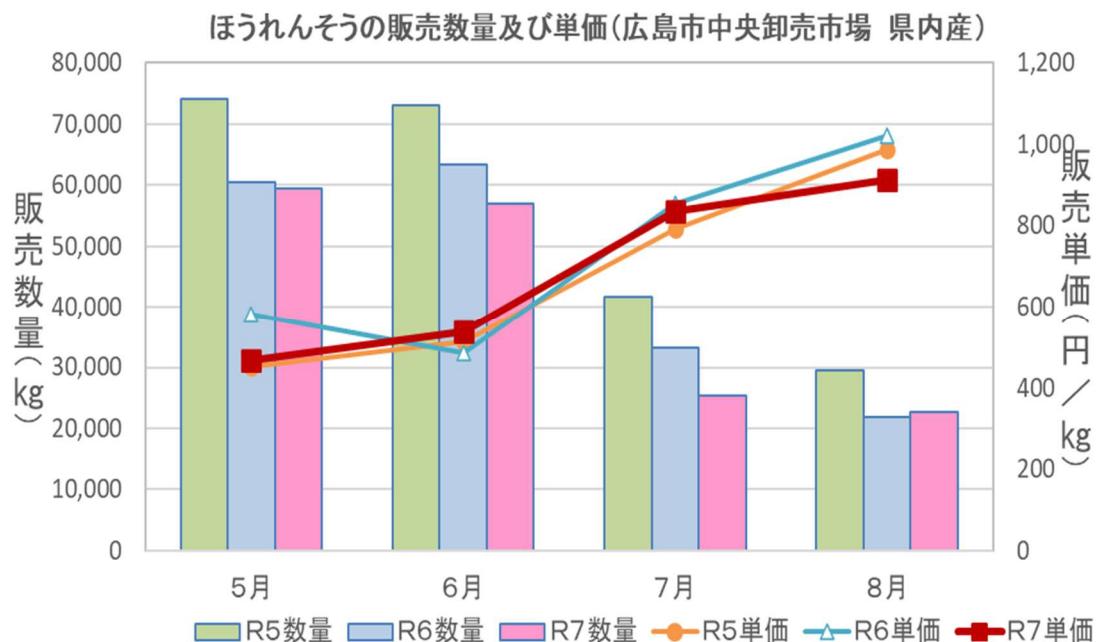
販売数量は5月が少なくなったものの、6月から8月は例年並みかやや多くなり、販売単価は例年より低く推移した。



d ほうれんそう

主に庄原市や北広島町などで生産されたものが流通した。

5月以降は高温の影響もあって生育不良となり、販売数量は例年より1～2割程度少なくなったものの、販売単価は例年並みで推移した。

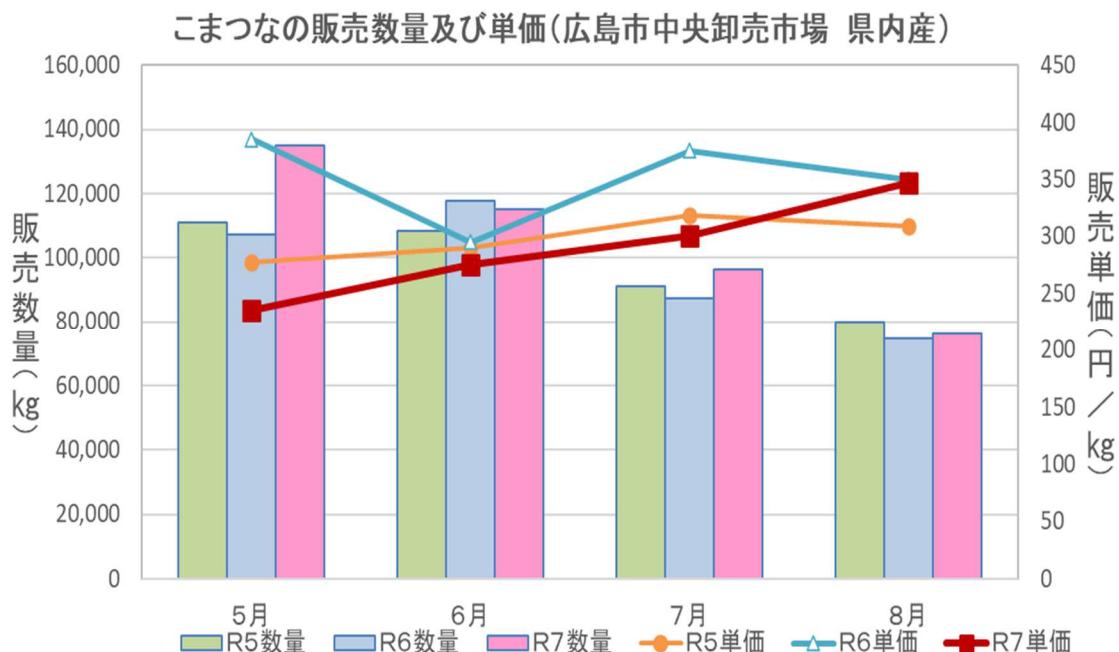


e こまつな

広島市、安芸太田町を中心に生産されたものが流通した。

販売数量は5月から7月は例年よりやや多く、8月は例年並みで推移した。

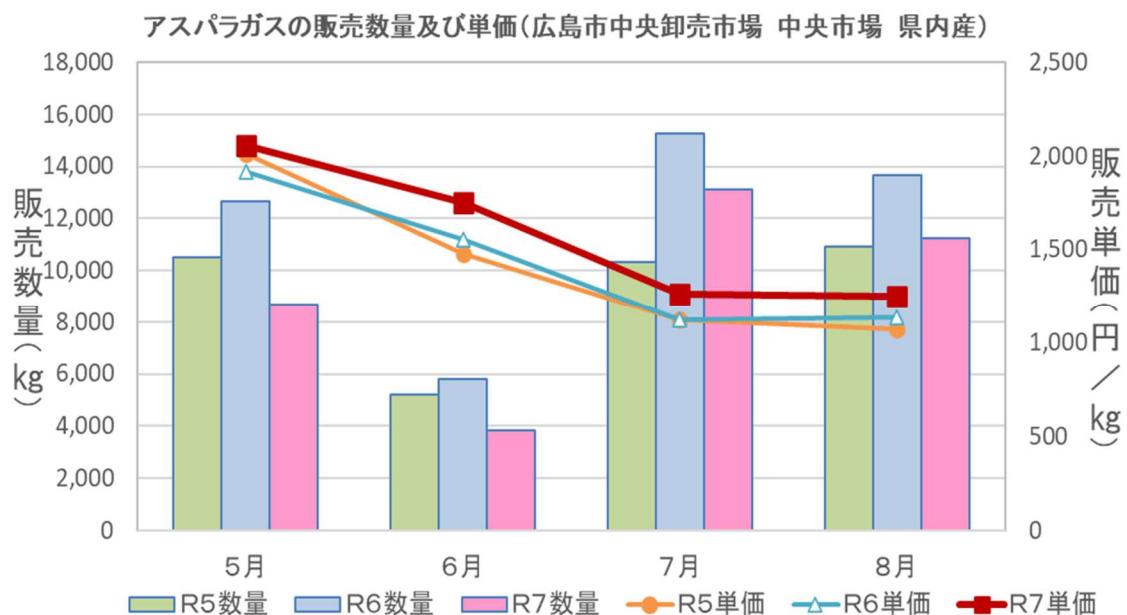
販売単価は7月まで例年より低く推移した。



f アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通した。

販売数量は例年より1～2割程度少なく、販売単価は例年より1～2割程度高く推移した。



(d) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん

極早生の出荷が10月6日から開始された。

販売数量は前年比113%の7,550tと見込んでいます。

今年は表年であり、適度に雨が降っていることから順調に肥大している。

b レモン

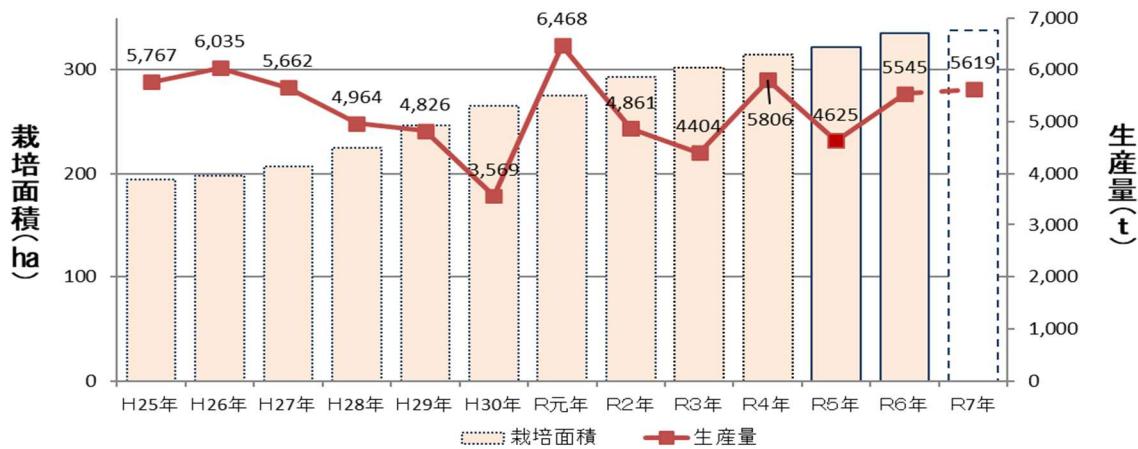
ハウスレモンは、6月下旬から出荷が開始された。

環境制御技術が活用され、9月末までの販売数量は前年よりやや多い 43 t となった。

露地栽培のレモンは、10月6日から出荷が開始された。

本年産の販売数量は前年並みの見込みである。

レモン栽培面積および生産量



※「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）。

令和6年の栽培面積及び生産量は JA 広島果実連（株）調べ（速報値）。

令和7年産の生産量は JA 広島果実連（株）調べ（開花・発芽状況調査結果から推計）。

c ぶどう

ぶどう全体では、猛暑の影響で出荷が前進化したものの、販売数量は前年並みで推移した。また、シャインマスカットの販売数量は前年より 26 t 増加し (+7%)、販売単価は前年より 187 円/kg 低下した (△9%)

d なし

5月の着果量は平年並みで、幸水・豊水とともに市場出荷に係る販売数量は前年より多く推移している。

e いちじく

猛暑による障害果の発生があり、販売数量は前年と同程度で、販売単価は前年より低く推移している。

f りんご

着果量は平年より多く、生産量は前年より増加すると見込んでいる。

広島県産落葉果樹の販売状況 (令和7年9月末までの累計 J A広島果実連（株）扱い)

品目 (品種)	t	販売数量		販売単価		
		前年比 (%)	前々年比 (%)	円/kg	前年比 (%)	前々年比 (%)
ぶどう (ピオ一ネ)	566	100	96	1,584	96	100
ぶどう (シャインマスカット)	335	107	115	1,752	91	94
なし (幸水)	224	218	107	497	92	118
なし (豊水)	350	131	111	477	91	102
いちじく (蓬莱柿)	129	100	70	977	85	99

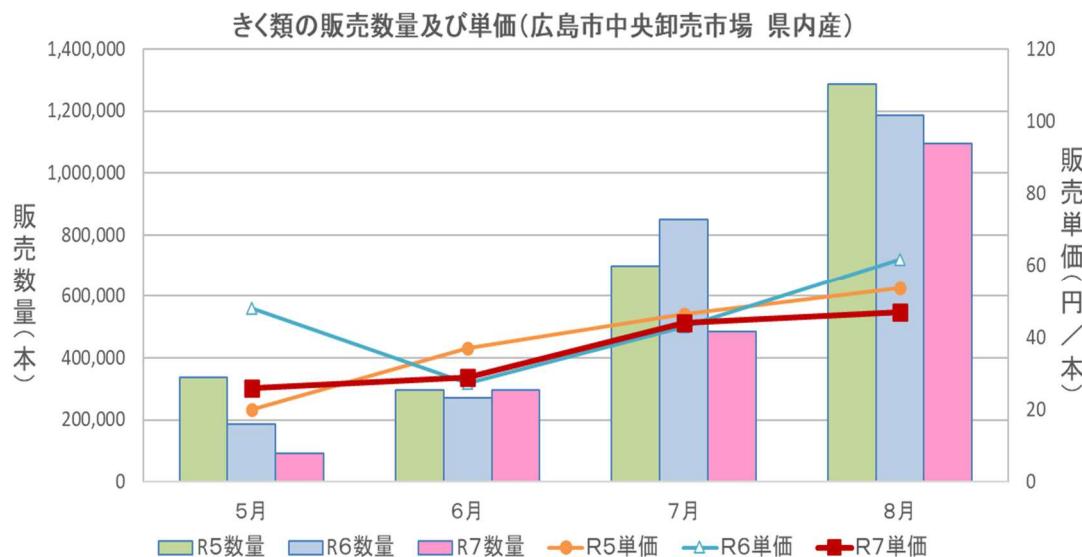
(I) 花きの生産状況

切花全体では、猛暑の影響により販売数量は減少したものの、販売単価は安値で推移した。物価高の影響により花きの購入を控える傾向にあったことが原因とされている。

a きく

庄原市、三次市、江田島市等から出荷された。

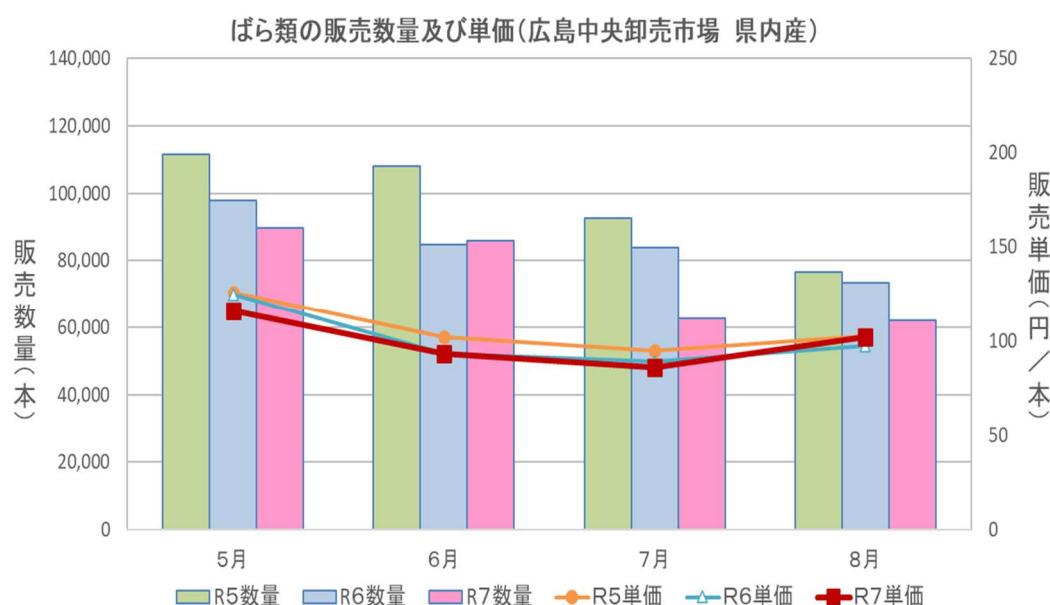
盆仕向けの小菊は、高温により生長が鈍化したものが多く、販売数量、販売単価ともに例年を下回り推移した。



b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷された。

販売数量は例年よりも2～3割程度少なく推移し、販売単価は例年並みで推移した。

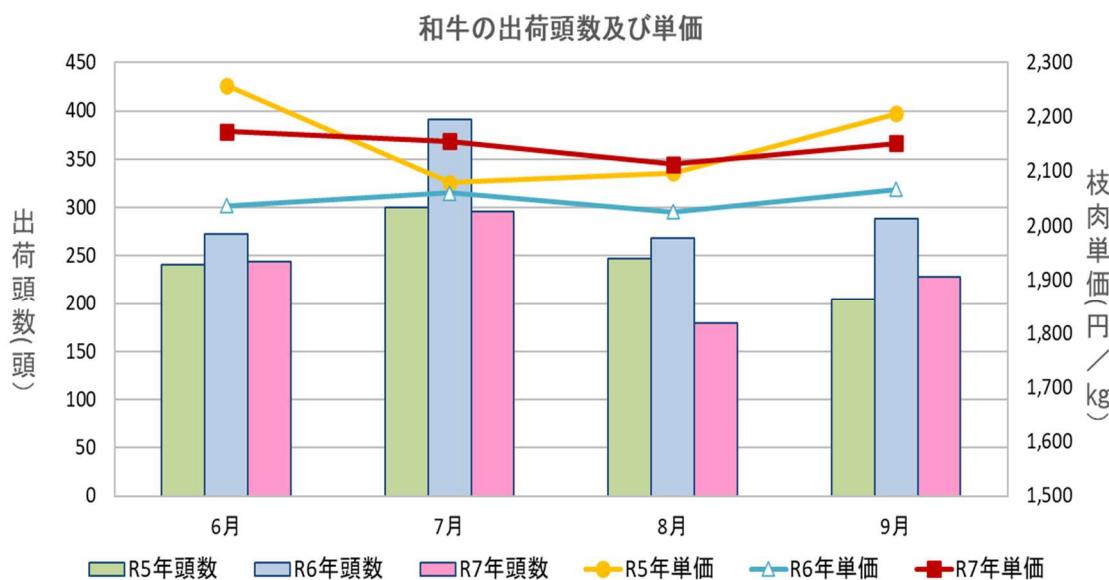


イ 畜産物の生産状況等

(ア) 和牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 67～89%）。

枝肉単価は、消費者の節約志向は継続しているものの、出荷頭数が減少し、和牛肉の引き合いが強まっていることから、前年を上回って推移している（前年比 103～107%）。

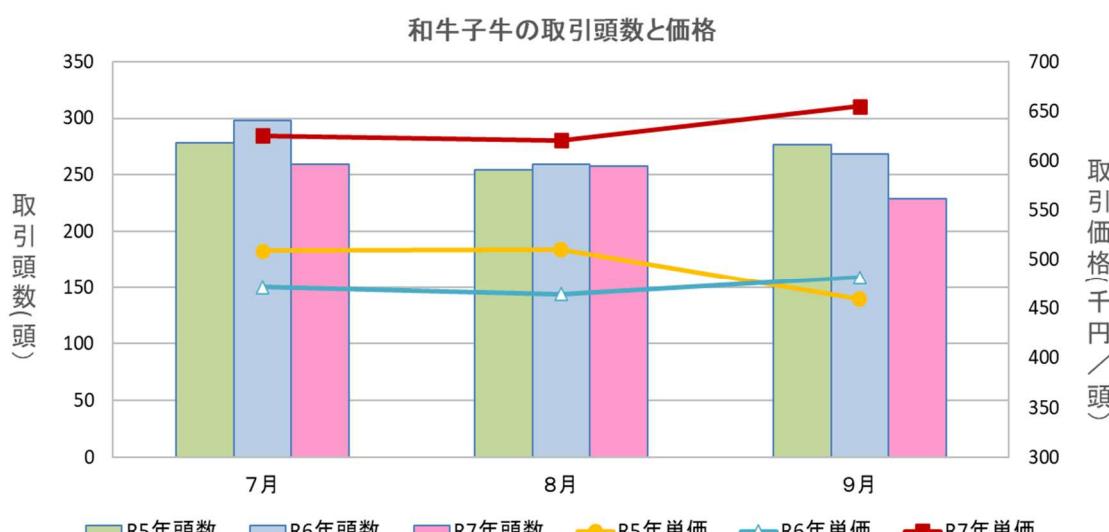


※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢 A 4 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、月により変動はあるものの、前年をやや下回って推移している（前年比 81～100%）。

取引価格は、全国的な子牛不足の影響から、前年を大きく上回っている（前年比 133～136%）。

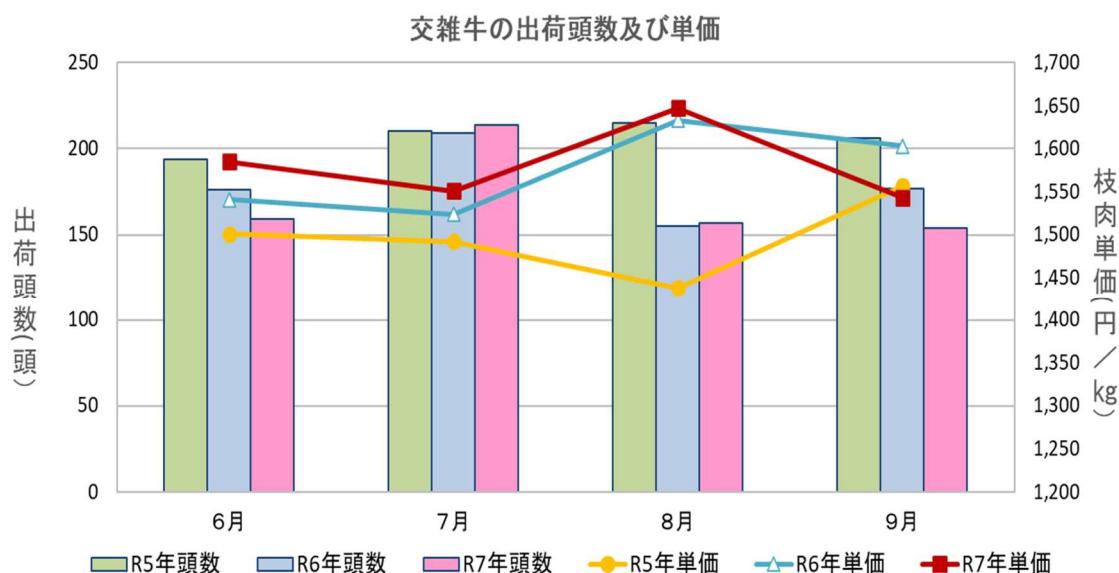


※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

出荷頭数は、月により変動はあるものの、前年並みで推移している。

枝肉単価は、引き続き高価な和牛肉からの代替需要はあるが、前年並みで推移している（前年比 96～103%）。

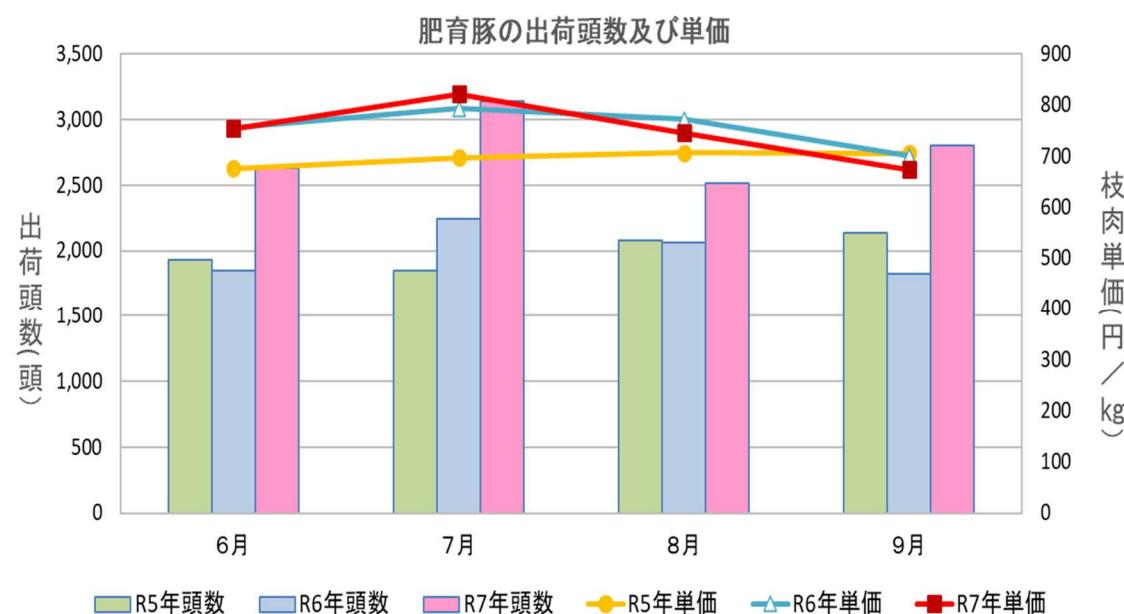


※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢B3で、いずれも市場食肉市場。

(イ) 豚

出荷頭数は、県外からの出荷頭数が増えたことから、引き続き前年を上回って推移している。

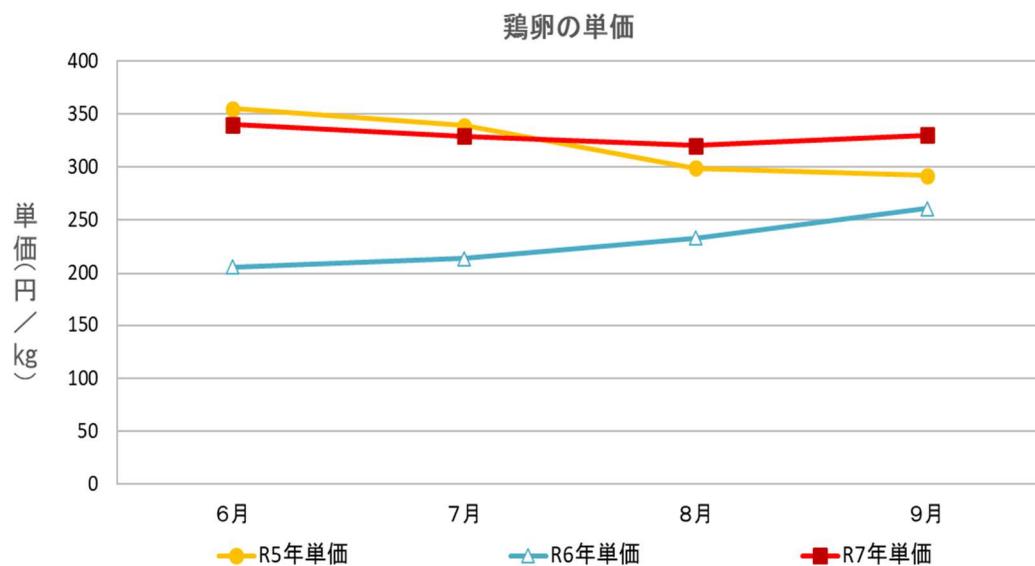
枝肉単価は、前年並みで推移している。



※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数・枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(才) 鶏卵 (全農ひろしま M)

鶏卵の単価は、高病原性鳥インフルエンザの感染が相次いだ影響で、全国的に卵の供給量の減少が続いていることから、前年を大きく上回っている。

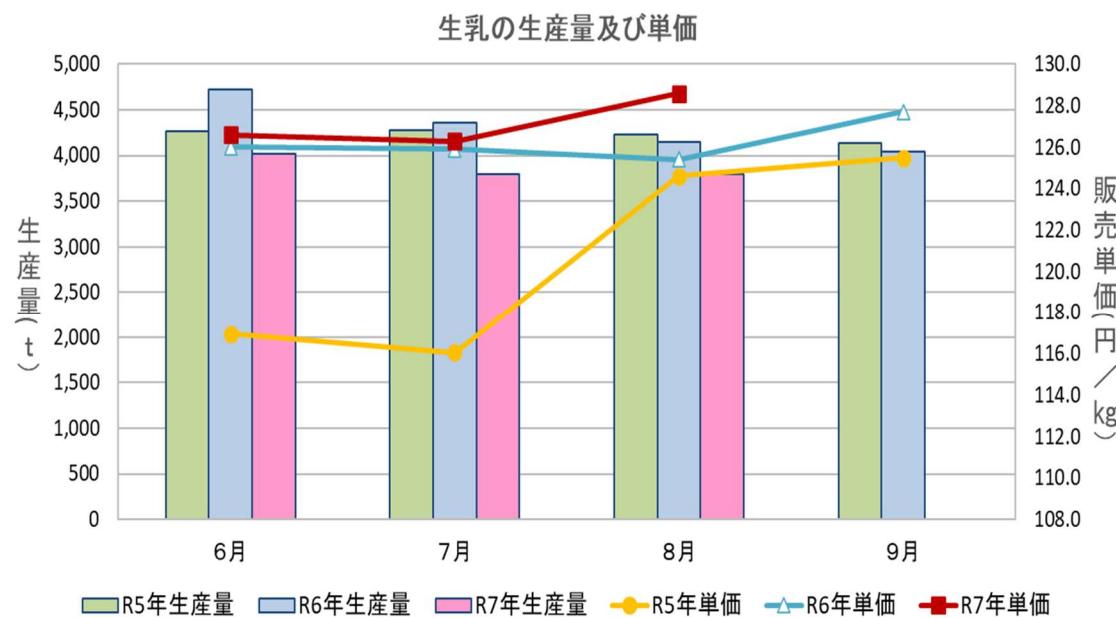


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」(M品の単価)

(才) 酪農

生乳生産量は、前年を下回って推移している（前年比 85～92%）

生乳の販売単価は、令和7年8月から飲用向け乳価の引き上げがあったことから、8月は前年を上回って推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合連合会で手取り乳価。

(才) 飼料等価格

配合飼料の価格は、原料の国際価格の下落や為替相場等の影響により下落傾向にあるが、依然として高値が続いている。

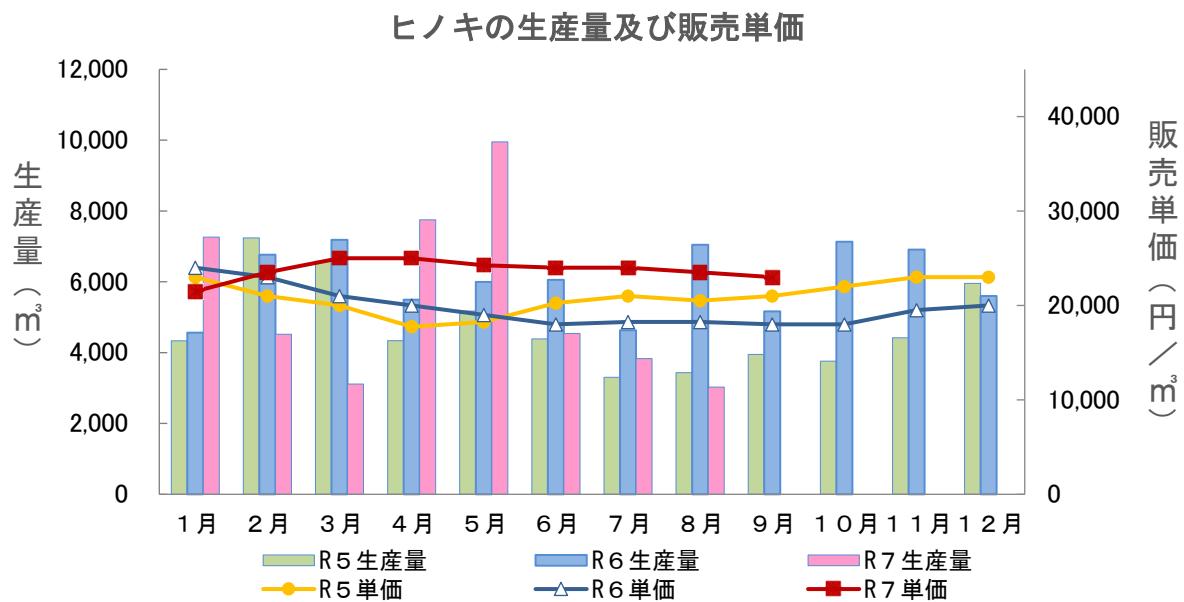
粗飼料の価格についても、依然として高い水準で推移している。

ウ 林産物

木材の生産状況

ヒノキの生産量は、夏場の猛暑の影響により、前年に比べ低い水準となっており、販売単価は、生産量の減少により、高値で推移している。

引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、広島県森林組合連合会と連携して、流通状況の把握に努める。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

エ 水産物

(ア) 水温

9月上旬の県内海域 32 点の表層水温は 26.5~31.3°C で、平年差は+1.5~+3.5°C であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
9月上旬の水温	28.8~30.3°C	26.5~28.6°C	28.7~31.3°C
平年差	+2.5~+3.5°C	+1.5~+2.7°C	+2.2~+3.4°C

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 15 品目の取扱数量について、平年比 150% 以上の魚種はマダイ及びマアジの 2 品目であったが、その他の 13 品目の魚種は平年比を下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価について、平年比 120% 以上の魚種は、オコゼ、サワラ、メバルなど 11 品目であった。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和 7 年 8 月）

品 目	市 場 全 体						县 内 产					
	数 量		单 価		数 量		单 価					
	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	40,916	103	89	851	107	105	24,118	155	167	688	119	111
スズキ	5,850	80	57	1,588	102	132	1,544	86	47	1,079	98	125
カワハギ	2,688	82	23	1,062	111	152	556	88	68	1,695	82	109
タコ	14,666	120	49	1,913	92	139	7,881	203	65	1,874	92	135
クロダイ	4,028	136	69	470	115	117	3,280	113	59	504	123	124
アナゴ	22,334	96	75	2,448	115	126	664	196	68	2,891	149	136
シタビラメ	1,701	75	54	1,331	95	122	675	78	42	1,353	100	121
サワラ	6,458	74	50	1,508	118	146	598	91	72	1,708	141	182
キジハタ	744	73	39	2,307	78	91	528	65	43	2,214	85	93
カサゴ	333	46	30	1,378	116	144	172	29	22	1,221	104	137
ガザミ	775	46	39	2,557	107	125	46	56	7	2,702	81	131
オコゼ	533	92	39	4,836	118	182	236	125	42	5,271	130	197
メバル	1,902	83	34	2,330	102	128	444	31	20	2,539	123	146
マアジ	51,701	116	78	760	106	125	896	145	171	1,680	155	115
タチウオ	4,046	140	31	2,416	101	155	316	109	7	2,334	107	142

※ 平年値は平成27年～令和 6 年の平均

※ 数量 : 平年比50%以上増

※ 数量 : 平年比50%以上減

単価 : 平年比20%以上増

単価 : 平年比20%以上減

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、9月末現在、共販数量は平年並みで、金額及び平均単価は平年を上回っている。

広島県煮干共販出荷実績（令和7年9月末現在累計）

区分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和7年度 (平年比)	1,392 (126%)	1,931,235 (158%)	1,387 (126%)
平年	1,109	1,221,312	1,101

※平年値は令和2年度～令和6年度の平均（9月末累計）

(イ) 養殖状況

a かき養殖

かきの出荷は、昨年度と同様に平年よりも約3週間遅れの10月20日から順次開始される（令和6年期は10月21日）。

全ての生産者の出荷が出揃うのは11月以降を見込んでいる。

採苗は7～8月にかけて順調に行われ、おおむね8月末までに必要量が確保された。

b のり養殖

のりの採苗は、昨年度と同様に10月9日から採苗が行われている（令和6年期は10月9日）。

「乾（ほし）のり」としての出荷は、1月上旬を見込んでいる（令和6年期は1月14日）。